

春で～す

伊良湖から帰る途中、「菜の花ガーデン」に寄りましました。辺り一面に咲いている黄色の菜の花が視界に入り、思わずスマホで毎日、コロナで暗く沈んでいる気持ちがパッと明るくなったので、皆にも伝えようと投稿しました。

投稿：富士見の春届け便



『野依八幡社』どぶろく&しだれ桜

野依八幡社

境内敷地面積は約 3,563 坪。登記上は「八幡社」。社格は旧指定村社。格付は 10 等級。往昔は野依村の氏神。社伝によると、慶雲元年（704 年）正月豊前国（大分県）宇佐宮の分霊を奉還、八幡社として鎮座。主祭神は「譽田別尊（ほむた わけの みこと）」（応神天皇）。仲哀天皇の第 4 子で、母は神功皇后、日本武尊（やまと たけるの みこと）が祖父。天皇在位期間は、41 年、70 歳で即位し 110 歳で没。



どぶろく（濁酒）

野依八幡社は、明治 30 年 8 月 31 日酒類の製造免許を取得。毎年、秋の例祭（10 月の第二日曜日）において、境内の「麴室（こうじむろ）」で醸造した「どぶろく」が、神殿に奉納後参拝者に無料で振る舞われる。出来立てで、とても美味しいとの評判。



しだれ桜

「命 二つの中に 活きたる桜かな」＜芭蕉の句＞野依八幡社のしだれ桜は、深遠な歴史を宿しながらも明確な記録や通説もなく、その実体は殆ど謎。ただ村誌の中に一行、「天保 8 年（1837 年）大暴雨に見舞われ、地上一間余りの処から折れ、三本の幹生ず」と記。その時の推定樹齢から、350 年～400 年ごろ植樹されたものと推測。また、昭和 34 年 9 月の伊勢湾台風により、3 本の分幹が倒折する被害を受けたものの蘇生。



平成年代に大手術を施工し艶やかさが復活。平成 11 年 2 月、市指定天然記念物に指定。毎年 3 月下旬、この「しだれ桜」の開花を愛でる「祭り」が行なわれ、多くの人出で賑わう。

コロナ禍のため、昨年 3 月の「しだれ桜まつり」と 10 月の「どぶろくの振る舞い」は中止。

さて、今年のどぶろくは「？」。

投稿：元同八幡社の氏子総代